

学位論文審査の要旨

学位申請者	黄 明淑【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成22年度生】 (平成29年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	「誘い」談話における中日対照研究 — 「意味公式」を用いた言語行動の分析—	<p>本論文は、中国語母語話者（以下 CNS）と日本語母語話者（以下 JNS）を対象として、ロールプレイによる「誘い」談話の先行部、誘い部、終結部の言語行動を比較対照し、両者の「誘い」談話の異同からそれぞれのコミュニケーションスタイルの特徴を明らかにすることをとおして、異文化間コミュニケーション教育への示唆を得ることを目的とする。</p> <p>本論文は、「誘い」に入る前の言語行動から「誘い」の開始までの言語行動に着目した研究 1、誘う側が用いた「誘い」の表現に着目した研究 2、それに対する誘われる側の反応に着目した研究 3、誘われる側のためらいや否定的反応に対する再勧誘の言語行動に着目した研究 4、そして「誘い」の終結に至るまでの言語行動に着目した研究 5 の 5 つの研究で構成されている。</p> <p>それぞれの研究の結果から、CNS は積極的で、自分を強く押し出す「目的達成優先型」の誘い方をする傾向があるのに対して、JNS は相手との人間関係を優先し、遠慮がちで無理強いをしない「相手配慮優先型」の誘い方をする傾向があることを明らかにした。</p> <p>第 1 回審査会では、緻密な分析から CNS と JNS のコミュニケーションスタイルの違いが述べられていること、日本語教育における会話指導への具体的な示唆に富む点などが高く評価された。しかし、従来指摘されている中国人、日本人のコミュニケーションスタイルとの相違点が十分に描き出されていない、先行研究の引用の仕方に不適切な個所があることなどが、改善すべき事項として指摘された。申請者がこれらの要求に十分に応えた修正版を作成したことを確認した後、最終審査に進むことを決定した。</p> <p>公開発表会では重要な点を簡潔にまとめ、明快かつ分かりやすい日本語で発表がなされた。参加者や審査委員の質問にも真摯な姿勢で的確に回答した。以上によって審査委員会は、博士（人文科学）（Ph.D. in Applied Linguistics）の学位授与に相当すると判断し、合格とした。</p>
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子 教授 森山 新 教授 伊藤 美重子 教授 和田 英信 講師 加納 なおみ	
インターネット公表	○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否 ） ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="radio"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第 2 2 条第 4 項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	